

熊本県河内における温州ミカン品質の地域内差

平方康夫・岩本数人・内堀弘治・宮崎久哉・大津量男
(熊本県果樹試験場)

HIRAKATA, Y., IWAMOTO, K., UCHIHORI, H., MIYAZAKI, K. and OTU, K.
Investigation of the Quality of Unshu Oranges in Kawachi,
Kumamoto Prefecture

温州ミカンの品質向上に対する要望は今後益々強くなると考えられるが、新しい産地造成、或は既成産地の出荷改善等についての基礎資料を得るため、地形と果実品質の関係を調査したので、結果の概要を報告する。

調査方法

河内農協管内における昭和38年産の温州ミカンについて、早生温州は高接樹を除く10年生以上の宮川早生を、10月9日～10月29日に7回、計206点、普通温州は尾張系の成木について11月15日～翌年2月25日に21回、計510点を調査した。

成績

I 早生温州

調査果実採取園の傾斜方位別にまとめると次のとおりである。すなわち着色の早晚は、北面がやや早く南面がおそいが、10月後期には南面の着色が進んでいる。糖度は南面がやや高いようであり、特に10月末になるとその傾向がはつきりする。酸は着色始めから完熟期まで北面が高く南面は低い。果型指数は、全期間の平均で南面1.30、北面1.287と僅かに南面が扁平である。

しかし以上の早生温州については、当地方が早期出荷の関係で着色の進んだものから出荷するため、調査の後半にはかなりの品質の低下がみられ、この結果も完熟までおいた場合とはかなりの差があるものと考えられる。

II 普通温州

第1表の如き区分によつて結果をまとめてみると次のとおりであつた。

糖度は日照のよいところは標高10～200m程度の範囲であれば殆んど同じで11度内外を示し、日照の悪いところよりも常に高い。又日照の悪い園のものも標高の差ははつきりしない。貯蔵後は何れの区も糖度の上昇がみられるが、その割合は日照の悪い地区に大きく

最も温暖な海岸線の長崎地区の増加が少い。しかし貯蔵後も、日照のよい地区が糖度は高い。

酸は同程度の日照であれば標高の高い程多く、特に日照不足の地区では標高差による酸量の差は著しい。貯蔵後は酸の減少がみられるが、収穫期に酸の多い地区程その減少程度が大きいが、しかしそれでも日当りのよい地区より、悪い地区は酸量が多い。

果型指数は、田代区102点、平区の50点の平均で同じく1.41で両区に全く差がみられない。

以上より、日当りのよい田代区の果実は、収穫期にも糖多く酸少く、貯蔵後も糖は増加し、酸の減少は少なくて、長期にわたつて品質は良好である。長崎地区のものは、貯蔵後の酸の減少が大き過ぎて長く貯蔵できない。日照不足の地区は貯蔵後の酸は適当であるが糖度がやや不足気味である。(第1図参照)

第1表 区分地区の概況

地区名	方位	標高(m)	日照(10月)	開花期
田代	南南西	20～140	10時間	0～-1日
	北	20～80	8	0～-2日
日影	南南西	80～200	10	0～-2日
	北	80～200	7.5	-2～-4日
長崎	南～南南西	20～80	10	0
	南～北	100～150	6.5	-7～-10日

第1図 普通温州果汁の変化
糖度

